

コロナ時代の 資金繰り改善 セミナー

[第3回]

お付き合いする 銀行の選び方

今後しばらくは、コロナと上手に付き合いつつ銀行交渉を行なう必要があります。その際の、資金繰りをよくするための心構えを理解しておきましょう。

モロトメジョー税理士事務所
税理士 諸 留 誕

【第1回】…「コロナ融資」と「通常の融資」の違い

【第2回】…無借金経営のメリットとデメリット

【第3回】…お付き合いする銀行の選び方

【第4回】…お付き合いする銀行の増やし方

【第5回】…いくら借りられそうかを知る方法

【第6回】…銀行は会社の決算書を疑う・修正する

銀行の種類

- ① 都市銀行……全国の都市部に本支店を構える、大規模な金融機関を言います。
- ② 地方銀行……地域の会社や住

お付き合いする銀行の選び方には気をつけましょう。銀行選びを間違えると、融資が受けづらくなってしまうからです。銀行はどこも同じではありません。

まずは銀行の「種類」と「特徴」を確認したうえで、「銀行の選び方」についてお伝えしていきます。

③ 信用金庫・信用組合……地域

民のための銀行で、地域に根差した営業活動が基本になります。ただし近年では、新規顧客を求めて他県にまで進出する例は少なくありません。

銀行と同じですが、信用金庫・信用組合は対象地域がいつそう狭く、より地域に根差しているという違いがあります。

④ 政府系金融機関……代表格と

して挙げられるのが「日本政策金融公庫（以下、日本公庫）」です。日本公庫は、国の政策を

実現するために、創業者や中小零細企業者向けにいろいろな融資制度を用意しています。

銀行の特徴

【金利について】

銀行の種類ごとの特徴として、都市銀行の金利は低め、信用金庫・信用組合は高め。地方銀行と政府系金融機関は、そのあいだくらいになります。

都市銀行の金利が低いのは、都市銀行が「大量におカネを集める力」を持っているからです。ネームバリューもありますので、多くの会社や人から預金を集めることができます。預金利息は「低金利」であるため、都市銀行は大量のおカネを低コストで集めることが可能。だからその分、低い金利で融資をすることができのです。いっぽうで、最も規模が小さい信用金庫・信用組合は、都市銀行ほど「おカネを集める力」はありません。おカネを集めるためのコストが高くなることから、都市銀行よりも高い金利で貸し出しせざるを得ないわけです。

【審査基準について】

ネームバリューや貸出金利の低

さから、都市銀行には多くの会社から融資を受けに集まります。そのなかから、決算書の内容がよい会社だけに融資をしていれば商売が成り立つのが都市銀行です。

信用金庫・信用組合もまた、決算書を重視します。ところが、それだけを見ていたのでは融資先がなくなってしまう。なぜなら、決算書がよい会社は、まず都市銀行から融資を受けますし、そこから漏れた会社は次に地方銀行から融資を受けようとするからです。

したがって、都市銀行や地方銀行の融資から漏れた会社は、決算書の内容がよい会社ばかりではありません。むしろ、決算書の内容になにかしらの問題を抱えている会社のほうが多いのです。

このため、信用金庫・信用組合は、会社の決算書以外の部分、たとえば、社長個人の財産や社長の資質などにまで目を向けて、融資の可否を検討するのです。

以上をまとめると、都市銀行は決算書がよくないと借りられない。つまり、審査基準が一番厳しい。信用金庫や信用組合は決算書が悪くても望みはある。地方銀行はそのあいだくらい、とのイメージになります。

融資を受ける 銀行の選び方

結論として、中小企業が融資を受けるのであれば、「信用金庫・信用組合」を選びましょう。都市銀行・地方銀行は、信用金庫・信用組合よりも決算書の内容重視であり、敷居が高いからです。借りやすさを考えれば、まずは信用金庫・信用組合。都市銀行・地方銀行の低金利も魅力ではありませんが、そもそも借りられなければ意味がありません。

加えて、日本公庫も必須です。中小企業は「いつも黒字」というわけにはいかず、業績に波があることは少なくないでしょう。日本公庫の審査基準は比較的緩めですから、赤字や債務超過のときには日本公庫が支えになります。

そのうえで、自社の年間売上高が1億円を超えてきたら、地方銀行からの融資にもチャレンジしてみるのをおすすめです。自社の規模に合わせて、お付き合いする銀行を選ぶ。年間売上高は、銀行選びの目安になります。

【都市銀行から融資を受けない】

民間銀行からの融資は、「信用保証協会付き融資」と「プロパー

融資」とに分かれます。信用保証協会付き融資とは、会社が返済できなくなった場合に、信用保証協会が返済を肩代わりする融資です。プロパー融資とは、信用保証協会の保証がない融資になります。会社はまず、信用保証協会付き融資を受けることで、返済の実績を積み上げ、信用を得ることでプロパー融資を受けられるようにしていくのがセオリーです。ただし、信用保証協会付き融資には「上限（会社の状況により異なる）」があります。

この点で、中小企業は都市銀行

■銀行の種類と特徴、銀行選びの基準

種類	金利	審査基準	銀行選びの基準 (年間売上高)
①都市銀行	低	最も厳しい	10億円以上
②地方銀行	中	厳しめ	1億円以上
③信用金庫・信用組合	高	やや緩め	1億円未満
④政府系金融機関	中	緩め	年間売上高に関係なく必須

から融資を受けるべきではありません。なぜなら、都市銀行が中小企業にプロパー融資をすることはまずないからです。都市銀行は決算書の内容がよい会社に融資をしていけば商売が成り立ちますから、リスクを負ってまで融資をする道理がありません。それでも融資をするとしたら信用保証協会付きに限られます。

ところが、都市銀行からの融資で上限いっぱいになると、地方銀行や信用金庫から信用保証協会付き融資が受けられなくなる。すると、返済の実績を積み上げることができず、プロパー融資は受けられなくなってしまう。

ですから、中小企業が融資を受けるなら、まずは信用金庫・信用組合、次いで地方銀行。加えて、日本公庫は必須と考えておきましょう。都市銀行から融資を受けるのであれば、「少なくとも年間売上高が10億円を超えたとき」がひとつの目安になります。

【業績が悪い銀行は避ける】

自社の周辺に複数の銀行があつて、銀行を選ぶことができるという場合、業績が悪い銀行は避けるようにしましょう。業績が悪い銀行は、積極的に融資ができません

から、融資を受けにくくなってしまいます。

銀行の業績をはかる指標として、たとえば「自己資本比率」があります。自己資本比率とは一般に、「自己資本／総資産」で計算する指標です。銀行における「総資産」は「貸付債権（融資）」に、「自己資本」は「利益」と置き換えてみましょう。

銀行は、自己資本比率をよくするために、「利益」を増やすことを考えます。ところが、低金利や回収不能による損失などで利益を増やすことができない場合には、「貸付債権（融資）」を減らすことを考えなければいけません。

「貸付債権（融資）」を減らすということは、すなわち「貸し渋り、貸し剥がし」です。ゆえに、業績が悪い銀行ほど積極的に融資ができず、会社としては融資が受けにくくなる。この理屈を理解しておくことが大切です。

銀行の業績を把握するには、自己資本比率のほかにも、総資産や預貸率、不良債権比率などの指標が参考になります。各銀行はさまざまな情報を公開していますから、銀行を選ぶときにはチェックしておくといでしょう。